

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（泊3号炉）
（583）

2. 日時：令和5年10月26日 13時30分～15時00分

3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）

4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

忠内安全規制調整官、天野安全管理調査官、江崎企画調査官、
宮本上席安全審査官、熊谷主任安全審査官、藤原主任安全審査官、
小野安全審査官、平本安全審査専門職、谷口技術参与、中房技術参与、
三浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

大橋副主任技術研究調査官

北海道電力株式会社：

原子力事業統括部 部長（安全技術担当）、他10名

原子力事業統括部 部長（審査・運営管理担当）※、他2名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

- （1）泊発電所3号炉 第4条 地震による損傷の防止（地下水排水設備について）（審査会合における指摘事項回答）
- （2）泊発電所3号炉 設置許可基準規則等への適合状況について（設計基準対象施設等）第4条 地震による損傷の防止（DB04 r. 3. 31）
- （3）泊発電所3号炉 ヒアリングコメント回答リスト（第4条 地震による損傷の防止（地下水排水設備））
- （4）泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 第4条 地震による損傷の防止（地下水排水設備）

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	はい。規制庁藤原です。それでは時間になりましたのでヒアリング始めます。泊発電所3号炉の第4条の地下水排水設備に対する審査会合の指摘事項回答、これについて事業者の方から説明してください。
0:00:18	北海道電力の伊藤でございます。
0:00:21	審査会合指摘事項を地下水排水設備に関わるものですが、
0:00:26	最終的な地下水の排水先まで排水可能な形であることを示すということで、本日ヒアリング、2回目と、
0:00:36	ということでよろしく願いいたします。
0:00:38	資料としては、回答介護向けのパワーポイント資料1-1。
0:00:43	資料1-2がA4のまとめ資料。
0:00:46	その後ろにコメントリストと、自主的な修正のリストがございますけれども、
0:00:51	資料1と1-1と1-2で概ね10分を目指して、ご説明差し上げたいと思います。
0:00:59	どうぞよろしく願いいたします。
0:01:01	まず資料1-1をご覧いただきたいと思います。
0:01:05	スライドの1ページ目が回答になってございまして、指摘事項と、あと回答の文字のところ、割愛しますけれども、表1をご覧いただきたいと思います。
0:01:16	排水機能維持とする考え方として、S s機能維持とする範囲、施設を記載した上で、構造強度を確保しているので、排水機能を維持できますということでその考え方とともに記載してございます。
0:01:31	S s機能維持としない範囲は、放水炉以降の施設として、記載しておりまして完全に閉塞することはなく、排水機能を維持できると、構造的特徴を踏まえて、
0:01:43	前回コメントでいただいた類似施設の損傷状況等も調査した結果、このようにいえるということで、取りまとめているものでございます。
0:01:54	この後、まとめ資料からの抜粋版として、考え方まとめてございますので、簡単にめくっていききたいと思います。
0:02:02	2ページ目3ページ目、こちらは地下水の排水経路の全体像ということで、平面図と断面図を示しているものでございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:13	それから、4ページ目と、5ページ目にかけて、まず4ページ目では湧水ピットポンプと排水配管、こちらはS s機能維持許容力等に満足することを
0:02:26	確認しますということでお示ししてます前回写真なかったんですけども、写真をおつけしてると。
0:02:31	それから一次系放水ピット5ページ目ありますけれども、こちら排水配管の間接支持機能になるということで、2000マイクロ、最大せん断ひずみ、これ以下になることを確認すると。
0:02:43	で、終局耐力の話と混在した部分、2000マイクロにそろえることで見やすくなってるというところを書いてございます。
0:02:52	これ以降6ページ目原子炉補機冷却海水放水炉
0:02:57	につきましてはこっからちょっと変わりますんで、
0:03:01	はい。北海道電力の河村です原子炉補機冷却海水放水炉以降のご説明させていただきます。6ページ補機補機放水量ですけども、こちらは今、現状の図面を示しておりますが、
0:03:14	駄目に示すような構造のボックスカルバートのRC構造物ですけども、現状値を指導の中に、構築されてますが、こちら再構築いたしまして、MMRで置換して岩着構造にして生成に対して構造強度を確保する設計として、
0:03:30	排水機能を維持することを考えております。
0:03:33	7ページにいきまして、放水ピットの方ですけども、こちら、Sクラスの再防護施設、流量縮小工等が設置されますので、こちらホスピタル、間接支持構造物ということで、
0:03:44	基準地震動による地震力に対して構造強度を確保することになってますので、それに排水経路も維持されるという形になります。
0:03:53	続きまして8ページですけども、コウ水路以降ですが放水路、放水地方遂行につきましては、構造的特徴や、先行サイト、大規模地震を受けた先行サイトの放水設備の状況、
0:04:04	一般産業施設の地震被災事例等を踏まえまして、完全閉塞をすることはない。副排水機能は維持可能と考えておりまして、9ページ以降でその詳細を簡単にご説明いたします。
0:04:16	9ページの方は放水路法人情報通以降の概略の図面と、あほ概の構造線等を示しております。
0:04:24	10ページ目の方が、
0:04:27	放水量の構造的特徴です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:29	放水量の方ですけどもシールド工法で構築しておりますが、シールド工法の特徴といたしましては、セグメントを多数の継ぎ手接合して形成される構造物でありまして、
0:04:40	追従性にすぐれたフレキシブルな構造が特徴です。
0:04:43	泊の方水路ですけども3号の放水炉は、六つのセグメントで構成されて、その構成1.2メートルリングを構成してそれが、その縦断方向へ連携されている状態です。
0:04:54	線セグメント自体は各セグメントにナカノねコンクリートを充填した構造でありまして、さらにセグメントの周囲にはみずほ称しシール水膨張性シールを配置しております、
0:05:05	これにより土砂の流入防止も期待できるというふうに考えております。
0:05:10	11ページの方ですが、こちら放水路の方に入ります。放水位置は、立坑部とケーソン部と分けて、記載しておりますけどもこちらのページは立坑部の方になります。
0:05:20	立坑部の構造、右側のA断面図に示すようなRCの円筒形の構造物でありまして、通水断面が十分な十分な通水断面を維持した構造となっております。
0:05:33	12ページの方ですが、ホース1の計装の方ですね、計算部の方はケーソン式コウ制定で構築される構造物でして、タテ瘤の上部を囲むようにRC造の計算を配置してます。
0:05:46	放水ケーソン分はですね右側の図面に示す通り、ガイカイよりですね縫製地側の方がええななチュウワリしと底盤コンクリートがあって3メートルほど高い。
0:05:57	状態になってますので、図に示す通り地震時にホースイチカワに、通信網を閉塞する方向には倒れにくい構造というふうになっております。
0:06:07	13ページですけども、放水コウです。こちら左の建設時の写真をご覧くださいんですけども、左上の写真のように構成管で構成されてましてこの構成管を左の写真、
0:06:19	このようにコンクリートで巻き立てるという計算としております。こちらも十分な通水断面を有しているものというふうに考えております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:28	続きまして 14 ページですけども、こちらは大規模地震を受けた先行サイトの放水設備の構造と被害状況ということで表の方は例として放水量を示してございます。
0:06:39	他サイトに聞き取り調査いたしまして、大きな地震を受けた女川、柏崎衛藤海田委員を調べております。
0:06:48	それぞれ放水量の構造としては泊と同規模の構造でありまして地質状況も似通った状況であることを確認しておりますが、それぞれ大規模地震を受けた状況でも、躯体が崩壊する等の損傷はなくて、
0:07:01	通水断面を閉塞するようなことはなかったということを確認しております。
0:07:06	15 ページですけども、一般産業施設における、地震の被災事例を調べております。
0:07:11	今回ちょっと調査文献一覧等をつけておりませんが、
0:07:16	東日本大震災の時のですね、土木学会の調査報告書等の文献を 24 文献ほど調べまして、その中のちょっと代表例をこの表の方に記載してありますシールドトンネルやボックスカルバート、
0:07:30	等の代表例になります。すべて調査し、いたしました。が、地中構造物や港湾施設について、内腔断面が完全閉塞した事例などは、確認されておられません。
0:07:43	最後まとめになりますけども、
0:07:47	湧水ピットポンプ室の放水ピットまで SA とするということでは井関の医事課の放水砲スイッチ放水コウは構造的特徴、先行サイト事例、一般産業施設の被災事例、
0:07:57	これらを踏まえて、完全閉塞することはないというふうに考えてまして排水機能が維持可能というふうに考えております。簡単ですがご説明以上になります。
0:08:07	はい。すいません少し前回いただいたヒアリングコメントの中で今のご説明の中で網羅されていないものにつきまして、
0:08:15	A4 版のまとめ資料の方でご説明します。すぐ終わります。
0:08:21	まず 29 ページはお願いお願いいたします。こちらすみません前回コメントじゃないんですけども、
0:08:28	衛藤。
0:08:31	集水管の

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:33	ある岩盤の局所安全率の結果を説明しなさいというものが残っておりましてこちら、前回、6月でお示ししてたんですけれども、最新の法定11月、正式にお示しし、お示ししてるものを11月ということで、
0:08:49	さらに変わりそうというお話もありますけれども11月以降に、またご説明するというので更新してございます。
0:08:56	続きまして20、すいません、ちょっと戻ります25ページをお願いいたします。
0:09:04	排水能力のところですが、3次元浸透流解析今後やりますけれども、今後設置する津波防護施設や、MMR等の状況を反映して、
0:09:15	モデル化しますということがわかるようにコメント反映として記載を追加しているというものでございます。
0:09:23	それから、最後になりますが、82ページ飛びますけれどもお願いいたします。
0:09:32	方で一次系放水ピットに係る記載ですが、
0:09:35	ひび割れが一次系放水ピットの隔壁に出た場合に
0:09:42	一次系放水ピットの水が電気建屋側の方にも流入しますと、その場合、最も保守的に考えても、もちろん補機放水側への水を、の流れを阻害するものではないし、
0:09:55	電気建屋から原子炉補助建屋等の重要施設があるエリアに水が伝播するもの、ものではないということでこの記載を追加すべきというコメントいただいておりますので、こちらは追加している状況でございます。
0:10:10	事業者からの説明は以上になります。よろしく申し上げます。
0:10:16	はい。江藤規制庁フジワラですでは、
0:10:19	質疑の方に入りたいと思いますがちょっと私の方から、
0:10:24	全体的な話をさせていただきます。
0:10:30	今回はコメント回答ということでパワポの1ページの指摘事項に関する、今年の2月ですかね、の、
0:10:40	内容がされると、それに関して説明されてることは、
0:10:45	内容はうん。結構そういうふうやってるのかもしれないけどちょっと、
0:10:51	説明の時のこの指摘をした時の背景っていうのがですね何かなかなか、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:59	ナイトウ、そもそも一体これ何を、何ですかね。
0:11:03	どこが大きな論点なんだろう、今回の会合ですよ。
0:11:08	例えば
0:11:09	パワポの、そうですね9ページ以降から、結構大量に何か資料をつけられておるもの。
0:11:20	これがちょっとあたたかも何か、
0:11:22	すごいなんか度論点のようにもちょっと見えがちで、
0:11:27	何ですかね。
0:11:28	まず、
0:11:30	まずそこに至る以前の話としてまず、
0:11:34	ちょっと整理をした方がいいことをちょっと言いますで、
0:11:39	なんかこの指摘を出した当時ってあるじゃないすか
0:11:42	まず、
0:11:44	原子炉例えば3ページにおける、原子炉補機冷却海水放水、これはだから、SSで、
0:11:54	壊れるかもしれないしあと岩着もしてないという状況がまずありました。で、
0:12:00	加えて、あと放水ピットには逆流防止設備もありませんでした。
0:12:06	ですよ。
0:12:07	だから、我々はこういった状況かんがみて、
0:12:12	もし仮にここが放水炉が壊れたら、津波も当然入ってくるし、地下水の方でいけば、
0:12:20	原子炉建屋の近くからの水が溢れ出すような現象があったときに、それがすごい大きな影響になるんじゃないか。
0:12:30	例えば、
0:12:32	我々としては例えばですね2ページの方これ、何かですよ。金。
0:12:37	若生の中に入ってるかちょっと詳細ないですけど要は、ハウスイ、
0:12:42	何だ、包丁低を貫く屋外排水炉ってのがありますよね、雨水を排水する。
0:12:50	そっから普通は地上に出た水は出ていくんですけども、
0:12:55	原子炉建屋付近から、フジタ水がさすがにそこまでの距離が同意ことをやっぱ、やっぱ懸念して、一応指摘をしたという背景は、これフラップゲートも一緒なんですけど津波の方に出したやつ。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:09	だからまずそういった状況をちょっときちっと整理して欲しい、ああした方がいいんじゃないか。要は、以前は原子炉建屋の近くで溢れる状況だったんで今回はじゃあどうか。
0:13:21	ていうのがまず一つ。
0:13:23	あともう一つ、呉と。
0:13:26	いうのであれば
0:13:29	先行サイトの審査実績って、見てますか、っていうところもあります。
0:13:34	で、
0:13:35	例えば女川の設工認とか、例で申し上げますと、
0:13:40	女川設工認では地下水排水設備の用水路っていうのが、防鳥という先ほど言ったちょうど逆、屋外水路の逆流防止設備のバスの近くにあるものと、
0:13:52	それからすごい遠いところという2種類がありました。
0:13:57	で、近いところについては、用水路から、すいませんの、
0:14:01	経路が一応液状化する地盤だったりとか、スズキの維持のない止水排水なんすね、女川では、
0:14:08	それについては一応路距離が短いところは、自然流下
0:14:13	で一方で遠いところ、
0:14:16	については、さすがに自然流下はちょっと厳しいのかなというところで、仮設ホース等で確実に排出するような状況にしてた。
0:14:27	そういうのを泊にも同様に、先行サイトの内容を踏まえて、何か当て込む古藤がまず
0:14:35	やった方がいいんじゃないかでない。
0:14:37	やっぱりSS機能維持をしない範囲っていうのが今、明確に、
0:14:44	あるものが、
0:14:46	完全に閉塞することなくっていう、そこまで言い切ることが、ちょっとロジックはかなりきついのかなと思う。
0:14:57	うん。ちょっともうちょっと、
0:14:59	うん。
0:15:00	というところがあります。はい。
0:15:04	多分何となくですけどこれは、
0:15:07	要は何らかの証拠がないとやっぱ、可能性はちょっと
0:15:11	今の小ウタダほとんど可能性ちっちゃいかもしんないすけどね、一応そういったのをちょっと今、いいという、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:19	この資料を見て思ったところですがまず前提を整理した方がいいように思いますが、
0:15:24	いかがですかね。
0:15:33	はい。北海道電力の伊藤でございます。
0:15:36	ご指摘の内容理解いたしました
0:15:40	補機放水炉の当時の、今年の2月の状況ですか。
0:15:45	フラップゲートが、話がなかったと。そういうところは、まさにその通りでございます。
0:15:51	その時点で受けたコメント状況を踏まえて、スライドの前段部分資料の前段部分で、
0:15:59	この辺りを思い出せるというか、わかるようなものというのは必要なのかなというふうに理解いたしました。
0:16:07	もう一つ女川の地下水排水設備地下水水位低下設備の
0:16:12	近いところますと近いところというところの、
0:16:18	対応の違いというのは、我々も理解してございますので、藤原さんおっしゃったことも今理解できましたので、
0:16:26	少し仮に完全に閉塞しないという我々乱暴だったかもしれないんですが後の話をまとめてございますけれども、
0:16:34	出た場合どうなるのと、それは昔のように電気建屋の側からは、原子炉建屋の側からは出ないけれども、
0:16:43	仮にその放水ピット。
0:16:45	中すみません近いところで出たときに、どういう影響があるのかというところは、女川の地下水の状況も確認、再確認して、少し補強が必要なのかなとそういう理解で今、受けとめております。
0:17:02	規制庁の江崎ですが今おっしゃってる話なんで、その通りだと思うんですけどね。
0:17:07	いわゆる1ページで書いてあるように、
0:17:10	いろいろそういう震災事例とかそういう定性的な、
0:17:15	ジャッジによって、やはり完全に閉塞することはなく、排水機能は、
0:17:22	維持可能ではなくて、ここはもう書き過ぎかなと思うんですよ。さすがにね。
0:17:28	書き過ぎだし、言い過ぎだなっていう感じがしますよね。やっぱり、何ですか。
0:17:33	設計とか解析だけが根拠あるわけではなくて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:36	いきなりここで、
0:17:38	確かに完全に閉塞する可能性はないかもしれないけど、
0:17:43	閉塞するかもしれない。
0:17:46	だから、
0:17:50	ある程度完全に閉塞、
0:17:52	そういうことがない場合は、
0:17:55	つかう使えるということでそれを利用するっていうことは、別に我々も否定はしないんですけど、もしそれが使えなかったならば、
0:18:05	ニノミヤさんの家、の手は打っていただきたいなとナガエみたいですね。
0:18:10	そうすれば、多分ここ、
0:18:12	水道、
0:18:14	ていうか機能っていうのは、
0:18:16	いろいろな方、今も水がまじっちゃってますけどこの今地下水位低下設備の水だけに限って言えば、それらを基本的には、
0:18:24	防潮ての内側ではなくて、
0:18:27	に滞留させることなく、
0:18:31	長期的に一時的に審査することがあったとしても、それは速やかに、
0:18:36	傍聴というのを外へ、
0:18:39	出すような仕組みが、とかその運用的な手続きまたは機動的な対応で図られてますっていう説明があるのであれば、それはその一つの方法だと思いますんで、
0:18:50	それまず女川でも同じようなコンセプトだと思うんですよ。
0:18:53	なのでそこはもう少しこの辺はですね、
0:18:56	もう少し、
0:18:59	もうほぼS s 機能維持としない範囲も含めてどうしてもう利用しながら、
0:19:05	どのように確実に水を外に排出できるかってちょっと考えていただきたいと思います。
0:19:12	以上です。
0:19:16	はい。北海道電力の伊藤でございます。小関承知いたしました。
0:19:21	地下水排水設備の今地下水の審査でございますけれども、江崎さんから、従来から指摘いただいている通り、我々補機放水、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:33	原子炉補機冷却海水の話がどうしても一緒についてもありますので、その前提に立って、確実に海まで捨てれるということ、2の
0:19:43	として何を選択すべきか、基本的には、構内排水設備に頼ることになるかと思えますけれども、その辺りの考え方をお示しできるようにしたいと思います。
0:19:58	既設のエザキですけどちょっと確認だけなんですけど、
0:20:01	8ページで、これ平面図あるんで、ここに書いてあるわけじゃないんですが、
0:20:05	多分今この放水ピットから、多分この膨張てまでの間、
0:20:10	この辺の経路で、やっぱり応訴荒廃水路とか何か、いわゆる即効的なものってあるんですか、この
0:20:19	今場所にあるのは多分、
0:20:21	フラップゲートがかかりますよねこの辺に、
0:20:24	周知が書いてありますけど、
0:20:26	そこに多分
0:20:28	集水柵みたいなのがきつと膨張内側にあって、そこから不具合すれば、みんな、
0:20:33	それは繋がってるっていうような、
0:20:35	感じなのかなと思うんですけど。
0:20:37	そことかハウスイの間ってのは別にオク排出量が特にあるわけではない。
0:20:43	北海道電力カワムラですお答えいたします。放水ピットと屋外排水炉の間にはですねこれといった大きな放水設備があるわけではなくて、あるとしても道路排水とか、そういった程度のものがあるだけです。
0:20:57	ございます。
0:21:05	はい。北海道電力室です。はい。将来的にはですね今膨張抵抗再構築に伴い、僕は何もない状態になるんですけども、将来的な構内の道路排水とかの側溝とかは、この
0:21:15	オク排水につなぐ形になります。
0:21:20	規制庁、江崎です。多分このオオオカハヤシのフラップゲートはもちろんのことですけど、その裏側も含めた取水ます。
0:21:27	もう一応、防潮ての中に、
0:21:30	踏み込む形になって、基本的にはS sにも十分機能できるような構造と考えてもいいですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:39	北海道電力河村です。屋外排水炉の集水枡につきましては防潮低と隣接しておりますので、波及的影響を与える恐れがあるということで、成績の維持と考えております。
0:21:50	以上です。理解しましてありがとうございました。
0:21:56	と、規制庁藤原ですちょっと今事業者の方ではこの放水ピットから溢れ出ることも一応、ある程度ちょっと考慮するような感じで今、
0:22:08	考えてる一ような感じですかね今の。
0:22:19	北海道の兼田です。我々としては今産業界であるとか実績調べた上で完全閉塞しないだろうというふうにしたんですけども今のご指摘を踏まえると、
0:22:30	それでもやはり当然これ数の評価できるわけじゃないですから、定量的に大丈夫だということを言い切るのはこれ、まず無理だと思うんですよね。そうした場合に今のコメントを。
0:22:41	踏まえますと、やはり万が一こう閉塞した場合についても、ちゃんと廃止できるように考えなさいっていうふうに、のコメントで受けとめましたので、そうすると我々としてはできる手段としましては、少なくとも
0:22:54	北方排水炉底についてはもう耐震化しますので漏れることございません。従って発電所の重要な設備から遠い近いところで、水が漏れるってことなくなりますので、
0:23:05	かなり防潮てに近い放水ピットのところでオーバーフローするという事象が万が一閉塞したら起こるだろうというふうを考えます。従ってそこでオーバーフローしたものを、
0:23:15	集水枡まで導くような形に整理するということを考えざるをえないかなと思いますけどそういう受けとめで大体認識として合ってますでしょうか。
0:23:26	導くってどういうやり方をずっとちょっとそれはお任せしますが、事例ですけど。
0:23:31	女川では、その辺は、一つは、
0:23:35	自然流下
0:23:36	表面を伝わってっていう、今僕は排水をもう、途中途中でちょっと壊れたとしても、水はそこにたまったとしても、次から水がそこをね、乗り越えていく堰を越えていくのでしょうか。つぶれたところ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:48	ある種、方面を自然流下してるような意味合いなんですけど、
0:23:53	そういったものが一つ。それともう一つ
0:23:55	何だっけ不フレキシブルな配管か何かで、
0:23:59	仮設ホースですとか、仮設ホースで、途中まで運ぶという案もありますということで、多分、
0:24:07	結局二つ用意した答えを用意したというふうに理解してはいますが、我々としてはそういう事例があるんで、一応そういう事例に関しては、
0:24:17	イメージしやすいということだけですけどもそちらの方でどこまでやれるか、距離が短いから何らしか、
0:24:24	管理を作るという、
0:24:26	ことを言ってらっしゃるのかはわかりませんがそれは
0:24:30	万全であればそれは越したことないですし、何かその女川も、
0:24:35	例を見てですね、御社で測るという、
0:24:40	多分、
0:24:41	モバイル的にも考えても
0:24:44	方法はあるでしょうから、
0:24:48	どれを、一番優先なんていうか、うまく使えるか、有効活用できるかってことを考えた上で決めていただければと思います。まずは、
0:24:56	北海道にカナダです。先ほどのイトウの方からも話しましたがけれども、地下水んと同時に広域排水も流れてきますので、多分
0:25:07	カトウ間であるとかそういうのに流すというのは現実的に難しいかなと思います。従って、量的に難しいのですね。したがってやはりこれ近いので自然流下できるような形で整理するというのを、
0:25:18	ちょっと実行した上で、少し考えさせてください。
0:25:20	以上です。
0:25:26	はい。江藤。ちょっと
0:25:28	今回の説明のロジックがどう、どういうところかというのを私申し上げたところだったんで今ロジックがちょっと今、今回の資料とちょっとあまり成り立ちなかったところをちょっと今今後、
0:25:40	明確にちょっとされるっていうのはわかりましたんで、
0:25:44	その中でちょっと1点だけ、さっき仮にですね、建屋の開口部が、例えば、パワポの3ページだと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:53	電気建屋って、
0:25:54	非常に 10.4 メーターのところに開口部があるんですね。こっから、要は何ですかね、大きい放水ピットの天端高さが 11 メーターなんで、
0:26:06	そのレベルの玄片野が低いと、こっちからまた水が出てくるかもしれないとかそういう仲良いいわゆるいたちごっこに近い感じになることも、
0:26:17	一応何か何となく今の方針だとあり得ると思ったんでその辺をきちっと事業者の方でですねちょっとどういうふうに、質疑の方が今後考えていただけたらと思いますが。
0:26:28	いいですかね。ちょっとこれは、私が気づいたことだけちょっと申し上げてるところなんですけど、
0:26:35	はい。北海道電力の伊藤でございます。あとエレベーションの関係は今藤原さんおっしゃっていただいた通りかなというふうに思っていて、
0:26:43	11 メートルの方が高いっていうのはおっしゃってる通りです。
0:26:47	すいませんちょっと私が聞き取れてないだけかもしれないんですけども
0:26:51	今藤原さんのご指摘というのが逆流防止設備があるんだけども、
0:26:59	放水ピット側の水の高さというのが、電気建屋側の一次系放水ピットに影響することも考慮しなさいっていう、そういう、
0:27:09	ご指摘、
0:27:10	だったでしょうか。違いますでしょうか。
0:27:14	ごめんなさい。規制庁藤原です。ちょっと私のちょっとイメージしたその状況をちょっとお伝えします。まず、本水路が万が一完全に閉塞した場合、地震時ですよ、津波はですよ。
0:27:28	そしたら、
0:27:31	地下水排水の衛藤水と原子炉補機放水の水っていうのは、たまり続けていきます。
0:27:39	だんだんと水位が上昇していきます。
0:27:42	水位が上昇する呉程度っていうのをそのままおそらく放水ピットと、この一次系放水ピット、あと電気建屋の開口部を通じた地上のところ、これは、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:53	おそらくほぼ同レベル、多少ちょっと違いはあるかもしれないですね。
0:27:58	が、どこもどれで上がっていく。そしたらある一定の地上に出る開口部を通じて、いずれ水は敷地に出ていくでしょう。
0:28:07	その時に一番低い開口部から水が出るような状況があります。それがだから、10.4のところは、今、この3ページを見たときに、
0:28:18	そこから出たら、何か最初の議論にまだ振り出しに戻ってしまうような気がしたので、要はどういうふうな説明のロジックにも金もよるんですけども、一応その説明を成り立たせるために、一応、事象の
0:28:31	状況をちょっと考えた上で、ご検討はされるんですよっていうことをちょっと言ってるだけです。よろしいですか。
0:28:40	はい。北海道電力の井戸でございます。よく理解できました。
0:28:44	万が一の方水路側への通水がないというところの前提を聞き漏らしておりましたそう。万が一そうなった場合には、
0:28:54	おっしゃってる通り一次系放水ピット側からの水の流れですので、エレベーションの関係で10.4の開口から先に0出るということも考えられるという、そういうご指摘だと思いますので、そこは、
0:29:05	そういうことにならないように、対応するというご説明できるようにしたいと思います。
0:29:12	はい規制庁、和賀フジワラですわかりました様は2年の時の要は、実現可能性のいくつかある項目のうちの一つが、そこがどうなのかというのを申し上げたところだったんで、ご理解いただきたいなど。はい。
0:29:26	私の方からは特にございません。
0:29:28	私の方からは以上ですが、
0:29:32	何か、はい、どうぞ。
0:29:37	成長のエザキですかちょっと確認だけね、3ページの右下の。
0:29:42	コース1があって、この放水路の図面の左側、内側ですね、ところで、
0:29:49	溶液みたいな席があるでしょう、タテ壁が、
0:29:52	この天端って何メーターですか。
0:29:56	下のところは3メーターだから、
0:29:58	なんか4メーターが4.5メーターか、そのぐらいのかな。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:03	北海道電力の河村です。少々お待ちください。
0:30:07	大体でいいんだよね。正確な数字じゃない。4メーター通って後はちょっと隣の図、北海道でナカムラで4.5より上だと思えますけどそんなに高くはないよね。
0:30:19	少なくとも11メーターより高くないってことであれば、
0:30:23	別にあれだよ、放水こって
0:30:26	このタテコウの部分ありますよね。
0:30:29	タテコウノ、この穴がふさがなければ計測しなければ側に、
0:30:35	護岸が倒れ込んだりすることはさっきないという話、構造的にしているのもその文章がなければ、
0:30:41	例えばさっきいろんな放水コウノ則管とか、
0:30:44	頑丈ですよって見せてたけど、その必要はなくて、
0:30:47	11メーターまで左の、放水放水ピットの11、TP11メーターまでたまったとしたら、
0:30:54	あれだよPコウ4.5メーター5メーターぐらいだから、
0:30:59	そこを乗り越えて水出て行くよね。そういう考え方でいいんですよ。はい。北海道電力の河村ですご認識の通り、TP11よりも低いので、放水コウの方にかかわらず、ここの設置の上から出てくると理解しております。
0:31:13	だから、確実に起こることはしっかり書いておいた方がいいかなって気がしますが、
0:31:25	ほか、規制庁側から、ちょっと前全体のところでも、
0:31:30	まずありますでしょうか。
0:31:34	全体関係もしよろしければ、細かい記載とかの関係でも構いませんので、
0:31:40	ございましたらお願いします。
0:31:47	規制庁中瀬です。資料1-1の4ページなんですけど、
0:31:52	これの矢羽根N〇二つ目で、
0:31:56	へえ。
0:31:59	途中からまた地下性排水管の間接支持構造図に電気建屋の地下部については、基準地震動を求めて
0:32:08	限界である2000マイクロを超えないことを確認するって書いてあるんですけど、電気建屋の地下部っていうのは、
0:32:15	具体的にどこを指すんでしょうか。これ1-2の資料見ても書いてないんで、範囲を明確にして欲しいなと思っております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:32:25	ただどこまで 2000 マイクロでやるのかっていうのを、まず、教えてください。
0:32:34	はい。北海道電力の伊藤でございます。
0:32:38	一次系放水ピットの図が、5 ページ目でございます。
0:32:44	地下部確かにご指摘の通りでどこまでが地下部というふうに明示しておりませんでした。
0:32:50	衛藤。
0:32:53	大澤さんがいらっしゃると思うんですけども 1010 メートル盤より下の範囲を地下部として、2000 マイクロを超えないことを確認しているというふうに、
0:33:05	私理解してますけれども、相違があれば、誤りがあればご指摘いただけますか。
0:33:22	北海道電力の大澤です。はい。5 市ご認識の通りで問題ないかなと 10.3 メーターから下が地下部ということでモデル上定義してございます。以上です。
0:33:36	わかりました。10.3 メーターからしたってということですね。
0:33:40	あとですね。
0:33:44	波及的影響というものではないですけど伝きいタテヤノ、10. 三名かったからの上については、それが壊れることとか、鉄筋が多分繋がってるんで、
0:33:57	それによって地下部に影響を与える可能性については検討しないんでしょうか。
0:34:02	その点も教えてください。
0:34:06	北海道電力の長田です基本的にはですねスズキの維持っていう観点で建屋が倒壊しないことを確認するということが目的かなと思ってございましてその観点では
0:34:17	建屋自体ですね波及的影響の観点で 4000 マイクロ以下に抑えるということで評価をする予定でございますので例えば全体としてもそれをもって
0:34:28	なんでしょうこの構造強度を確保するというかいうことができているというふうに整理しております。
0:34:34	だからとしてはわかりました。地下部については 2000 マイクロ、その以外については 4000 枚からいわゆる崩壊しないということを確認する。
0:34:43	という理解でよろしいでしょうか。確認のため聞いております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:47	北海道電力の土佐です今、中内さんおっしゃった通りの理解で
0:34:52	問題ありません。はい。以上です。わかりました。資料に、地下部の範囲を明確に記載しておいてください。以上です。
0:35:02	北海道電力のイトウで承知いたしました明確に記載するように出します。
0:35:18	はい。規制庁の谷口です。最初にフロアからあった話。
0:35:25	置いといてそれ以外のことで話をさせていただきます。
0:35:30	基本的に今法制度の記載が今まで書いてない。
0:35:36	これについて詳しく書いてあったんですけど、
0:35:39	昨今、今この中の資料D、例えば10ページ目に書いてある、
0:35:46	セグメント周法案主方向に入れてる。
0:35:49	水、水膨張シールの話がちょっと、
0:35:53	10ページ目のところに書いてあるんですけど、
0:35:56	やっぱりほう素放水炉の記載がどうするかってことによって変わってくるかもしれませんが、
0:36:04	放水炉の位置付け、
0:36:06	要は、
0:36:10	膨張性シールを入れることによって、
0:36:14	何を、
0:36:16	要は防ぐことを考えてるのか。
0:36:19	それを教えてください。
0:36:24	北海道電力の河村です。
0:36:26	このモニツ膨張性シールの位置付けといたしましては設計上において、微少なずれなり開きなりが発生した場合においても、
0:36:37	外部からの水でしたり土砂の流入を防止する役割を期待して建設としては設置しているものになります以上です。
0:36:46	この辺最初の話の中で、要は放水量はもうS s数で、機能維持するわけじゃないってことでいうと、要はこれは
0:36:57	セグメントがバラバラに動く可能性がある、変形が出る可能性があるっていうことだと思うんですけど、そういった変形が出た場合に、止水、今膨張膨張性のこの
0:37:10	シールを入れることによって、水とか土砂の進入ができ、もうしなくて、
0:37:17	中に入らないってことを保証してるってことですか、今の話は。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:22	北海道電力の河村です完全に防止することを期待してるわけでご ざいませので、最初にご指摘いただいたようにここの完全崩壊 しないといった、論旨の
0:37:31	問題もありますので、ここでもこの土砂流入防止といったところ の記載のトーンといいですか、そういったところを少し考え直し まして、全体的に伴うように記載を改めたいと思います。以上で す。わかりました基本的にその水の、
0:37:47	排水の件に関して、ここの放水炉の話が、書き方が全面的に変わ るんだと思うので、その辺のここの等も変わってくるんじゃない かなと思いますのでその辺、全体を見直していただければと思 います。よろしくをお願いします。
0:38:04	北海道電力河村です承知いたしました。
0:38:07	はい。1、一応、以上です。
0:38:15	はい。規制庁大橋です。
0:38:17	ちょっと途中からキタノで説明済みかもしれませんが、パワポの4 ページ。
0:38:23	4 ページに、S s チェックの話で、
0:38:26	耐震Cクラスの配管と間接支持構造物は、
0:38:31	S s 評価を行う方針っていう説明があるんですけども、
0:38:36	直接支持構造物、配管サポートの
0:38:41	Cクラスの配管の中に検討が含まれるっていうそういう考えでい いでしょうか。
0:38:48	はい。北海道電力今村です。はい、ご認識の通り配管支持構造物 についても配管に含まれるという認識でございます。以上です。
0:38:57	規制庁大橋です。了解しました。
0:39:00	それと野辺通件で5 ページなんですけど、これも図面の記載の話な んですけれども、
0:39:08	5 ページの、
0:39:10	下の足の断面図で、
0:39:13	この一次系放水ピット。
0:39:16	水色でハッチングしてる部屋の、
0:39:19	これ左側にも、
0:39:22	何か縦長の部屋があるように見えるんですが、
0:39:26	平面図とかパースを見ると、そこ部屋は、やってるかこの狭い部 屋はなさそうなので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:39:32	ちょっと図面の書きかた工夫が要るかなと思うんですけどどうでしょう。
0:39:39	はい。北海道電力の伊藤でございます
0:39:43	両方で相違がないように誤解を生まないように、今一度確認して、適切に修正して参ります。以上です。
0:39:51	規制庁の館です。
0:39:55	もう一つですね同じページの、
0:39:58	原子炉補機冷却海水放水炉っていうのが、このピットに取りついてて、
0:40:07	タクトのその右側が、
0:40:09	曲線の段、切断線みたいなので書いてあるんですけど、
0:40:16	これぐらい
0:40:18	円で書かれるとですね。
0:40:21	丸井神田とか、
0:40:24	杭のように、
0:40:26	近くなってくるんで、切断線って普通構造物よりも、ちょっと外に、
0:40:32	切断性がはみ出るとか、
0:40:34	阿藤曲線じゃなくて、直線で書いてガクガクっていう何線の方がいいんで、これだとねぱっと見た目、
0:40:42	カンロみたいに見えちゃうんで、国系ですから、あそこもちょっと細かったんですけど、
0:40:48	わかりやすく書いた方がいいかなと思います。以上です。
0:40:52	はい。北海道電力天田です。書き方について修正いたしたいと思います。以上です。
0:41:04	規制庁の三浦です。ちょっと確認させていただきます資料1-2の76ページ。
0:41:13	先ほどからちょっと話出てるけれども、放水炉のセグメント水膨張性シールで
0:41:21	記されてるっていうお話で、
0:41:24	それはわかったんですが、その76ページで、今度ホース色が、
0:41:30	放水1、逆側で見れば法整備とかな、そっちに取り付く部分ありますよね、その境界部ってどんなディテールになってるんです。
0:41:41	放水炉の

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:44	放水立坑部のSD境界部につきましては、約長さ70センチ程度のカトウ分ですね、カトウセグメントみたいのをに入れてそこはゴムで若干追従するような状態になってるんですけども、
0:41:57	そういったもので継ぎ手のような状態になっております。
0:42:03	だから、境界部から水の漏水があるってことはないってことですか。
0:42:08	東電桑村です相当そのように考えております。
0:42:11	もう少し境界部の情報も入れたらいいかもしれませんね。放水ピット系と、あとこちら側の放水地形との境界部ですね、どんなディテールで、
0:42:24	放水路側には入れておりますはい。
0:42:27	藤聖地タテコウがですね
0:42:29	そうですねはい。そちらに入れております。
0:42:32	放水ピットの方も同じような事態、法政ピットは岩盤内に入っておりますので、はい。わかりました。
0:42:39	はいじゃあすいませんRetailお願いします。
0:42:43	岩盤抜けたところは特にですねつけておりません。はい。
0:42:49	あとはちょっと82ページなんですけど、1G、一次系放水ピットの説明あるんですけどこれ多分号機ですねこれ。
0:42:59	5行目添付の7-20って書いてあるけどこれ長野18じゃないですか。
0:43:06	82ページの上から5行目6行目です北海道電力の伊藤でございます。失礼いたしました下の図を示してますので、18が正しいので修正、修正をお願いします。私から以上です。
0:43:30	規制庁熊谷です。今、
0:43:33	話し合った資料1-2の82ページの、
0:43:37	添付7-18図なんですけど、
0:43:40	これはパッと、私が初めて見るとですね、この一次系放水ピット。
0:43:46	の、
0:43:47	上面の上の方のところの、
0:43:50	電気建屋の開口部のところとの間のところがですね、何か塀で
0:43:56	開口部がないような形で示されてるように見えて、
0:44:01	電気建屋の開口部の方に水が行かないような、
0:44:04	普通になってるように私の方からは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:07	見えるんですけども、だから今、いろんな話を聞いてるとそこから出る可能性もあるような話があるんですが、その事実関係はどうなってるんでしょう。
0:44:18	はい。北海道電力の伊藤でございますおっしゃってる通りでここ断面だけで見ると繋がってないように確かに見えるかなというふうに思います。
0:44:27	スライドになりますけど5ページ、先ほど一次系放水ピットの常にございましたけれどもちょっと、
0:44:34	何ていうか
0:44:38	スライド5ページで右下の方で見ていただくとわかりやすいかなと思うんですけども何ていうんすかねL字構造みたいなこういうふうに、一部が低くなっていて、
0:44:49	その開口に向かって高い場所があるということで、空間として連続してございますので、水が出る、そういう構造になってございます。
0:45:00	規制庁小牧ですはい。
0:45:01	わかりました。で、
0:45:03	あればですね。
0:45:05	ちょっと、この図な図の方もですね、何か開口部があって、水が出入りすることが可能なようにですね、
0:45:14	してもらった方が良いかなと。
0:45:16	そうでないと何かぱっと見、
0:45:18	ちょっと違うように見えてしまうので、
0:45:20	それは資料1-1の3ページとかでも同じような図が載ってますので、
0:45:27	会合出るときはですねみんな見た人がわかるような形にさせていただければと思いますがいかがでしょうか。
0:45:34	はい。北海道電力の伊藤です。ご指摘承知いたしました。物理的に繋がってることがわかるような工夫をアノズに施すということで対応して参ります。
0:45:45	はい。お願いします後、
0:45:48	藤。
0:45:49	資料1-1のほうに戻りますけども、
0:45:53	これで
0:45:56	5ページとか、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:58	6 ページのところとか、5 ページのところですね、いろいろと、
0:46:03	三名で出てますけど、
0:46:08	わかる人はわかるんですけど、単位もですね、こういったところ
0:46:12	審査会合の資料の方にはですね、単位もきちんとミリメートルと かっていうのをですね、5 ページと 6 ページの方でもですね、
0:46:20	示していただければと思いますと。
0:46:23	いうのと、あと 5 ページのところ、ちょっと
0:46:27	すごい細かいところなんですけど、
0:46:29	上の平面図のところ、
0:46:34	1100 っていう、
0:46:38	図示してる場所があると思うんですが、この戦略ってのこの 1 系放水ピットの幅を 1100 っていうふうに、
0:46:44	1100 ミリっていうふうに示されてるんですか。それともその 1 個 上の柱のところまで示されてるんですか。
0:46:50	ちょっとそこら辺がわかりづらいので、
0:46:52	わかりやすく記載していただければなと思いますがいかがでしょ うか。
0:46:56	はい。
0:46:57	北海道電力の伊藤でございます。まず 5 ページ目 6 ページ目の単 位については拝承いたしました。ミリを追加いたします。
0:47:06	二つ目の話は、1100 はですね、右下の BBS と比較すると、おわ かりいただけるとは思いますけれども、矢印の表記が一つ足りない と。
0:47:16	いうことだと思いますので、こちらを追加して、はい。適正化し ます。
0:47:24	はい。あと、
0:47:25	またあと、あと記載だけのお話なのが続きますけどあと 6 ページ のところ、
0:47:37	二つ目の矢羽根のところの記載のところ、断面が小規模であり と。
0:47:43	0 西田が目が小規模なりと C A B R I が、
0:47:47	浅いことからあるんです。
0:47:49	断面の、
0:47:50	面積についてもですね、ここでも、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:54	断面示されてることもありますけども、断面積も具体的な数字を書いていたらいいいのかなとわかりやすいかなと思いましたので、お願いいたします。
0:48:03	北海道電力の河村です。こちらで断面積追記いたします。補足ですけども9ページの方に
0:48:12	一応書いておりました、文脈が違うんですけども9ページの一番右下のところに、放水炉の内管面積2.6平米ということを書いてありますが、ここに書いてもわかりませんので、
0:48:24	ご指摘の通り6ページの方にちゃんと記載したいと思います以上です。
0:48:29	はい。
0:48:29	わかりやすさの観点でよろしく申し上げます。
0:48:32	あともう1点だけ。
0:48:34	記載のところですけども、この後、
0:48:37	資料1-2の方を見ていただければと思いますけども、
0:48:44	本庄別紙11-20
0:48:46	2
0:48:47	20、23です。23ページ。
0:48:52	別紙11-9表。
0:48:54	今回、
0:48:55	ご説明いただいたところなんですけど、
0:48:58	このページ11-9表っていうのは、これは、
0:49:02	その前のページの、
0:49:04	別紙11-8表に、
0:49:09	※1のところで、
0:49:11	記載されてる。
0:49:13	御説明を踏まえて11-9表というのは、
0:49:16	かれてるんでしょうか。
0:49:17	だから、それで、
0:49:20	それ以外ってどっかへ記載されたりするともうちょっと、
0:49:24	図面じゃなくて
0:49:28	4の何ポツとかっていうところで、
0:49:31	ナカというのですねこの、
0:49:33	別紙の11-8のところの、
0:49:36	主事機能としては、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:39	湧水ピットエリアってのが、構成部位で示されてるんですけど、
0:49:45	別紙 11-9 表の支持機能を見ると、湧水ピット湧水ピットエリアと電気建屋っていうのも入っていて、
0:49:52	11-8 号と 11-9 表で、
0:49:55	ちょっと
0:49:56	構成部位が異なっているということもあって、そこら辺の考え方みたいなのはどちらかで、何か記載されたりするのかなと思ひまして、教えていただければと思います。
0:50:08	はい北海道電力の井戸でございます 11 の 8 の注記を踏まえて 11-9 表が作成されているというのは
0:50:18	その通りでございます、耐震性に関わる確認をどのように行っていくのかっていうところに、91-9 表、ごめんなさい 11-8 表で※を打っていて、
0:50:29	それに対する家が 11-9 表で記載されているということでございますけれども、
0:50:34	電気建屋に関しては確かにですね、ちょっと、
0:50:39	集水管ごめんなさい地下水排水配管が、原子炉補助建屋で対抗電気ダテを走ってますというところが、11-8 表の中で、
0:50:51	ちょっと今明確に見えて、
0:50:53	ないのかなというところがございますので、そこはどこを走ってるのかというところが、になるかもしれないんですけども、そこをわかるように、修正させていただきます。
0:51:07	はい。
0:51:08	そこら辺がわかるような形にさせていただければと思いますのでよろしくをお願いします。私からは以上でございます。
0:51:18	きついとミヤザキですか。パワポの 1-1 の資料でしたっけ。
0:51:23	ここでちょっと細かい話なんですけど、いわゆる言いたいことは大体理解はしているんですね。
0:51:30	14 ページからんと、15 ページなんだけど、
0:51:35	いわゆるこの市調査によって、泊 3 号機のいわゆる放水炉が、
0:51:43	壊れにくいといったところに帰着するには、
0:51:47	まだまだちょっと、
0:51:48	説明が足りないな。
0:51:50	て思っはいるんですが、
0:51:52	例えばね、まず 14 ページって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:55	まず、女川、柏崎、東海大日程。
0:51:58	ボックス上ですよ。
0:52:01	片方は、円形のトンネルですよ。
0:52:05	形状が全く違うんだけどこれ何言いたいの。
0:52:09	思いません。
0:52:14	多分、
0:52:15	普通は、
0:52:16	ボックス状のものより、トンネルの方が、
0:52:20	構造耐力程度が大きいですよ。それなぜかって円形でリング状 なんで、
0:52:26	荷重を変えると、当方討伐状態の荷重であれば全部軸力になっ ちゃうんで、曲げモーメントとかせん断とか、0ですよ。
0:52:33	でも地震時の荷重がかかるから、そういうわけにはいかない んで、併発がかかるか部分に関して言えば、
0:52:43	ある程度曲げモーメントせん断を切るんですが、その部分の中 でも、全部全部が全部ではないんで軸力にも、転嫁される部分ある んで、外からかかる荷重が割と軸力に転嫁されて、
0:52:58	構造がさっき書いたり、
0:53:01	降雨高角なんだけど中にコンクリート詰めちゃってるんで、
0:53:05	いや、座屈はしにくい構造になってるんで、いわゆるコンクリ ートの圧縮耐力が相当あるんで、そこで耐えられるような構造に なってるってことですね。だから、
0:53:15	言いたいののはあれですねボックスカルバートだと、今までグー学 部ってのが出てきちゃうんで、そこでもうすごいモーメントが積 み上がってしまうんで、当然そのあたりの付近でせん断も起きる ということで、
0:53:26	割と壊れやすいんだけど、
0:53:29	だから他のサイトから比べると、構造形状とヒート加工。
0:53:35	ただそ構造から考えて泊のほうが優位性が、
0:53:39	あるとする、すごくあるとは言えないけど、見た目あるよって いうことですよ。
0:53:45	前にもかかわらず、
0:53:47	被災地のところの方が構造強度がやや劣ってるのかっていうと、 ちょっと問題があるか、語弊があるかもしれないけど、
0:53:55	うん。今日、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:57	低いにもかかわらず壊れていないので、
0:54:00	泊は壊れにくいはずだって言いたいわけです。
0:54:04	北海道電力川村です。説明が足りず、申し訳ございませんでした。まさに我々が考えていたところ今矢崎さんにおっしゃっていただいた通りの認識でございます、まだシールドの高架セグメントの円形の構造であるということと、
0:54:19	他サイトではボックスカルバートのような地中構造物でも壊れてないといったところを比較して、より泊の方が変わりにくい構造であるといったところから、このような結論に至っております。以上です。
0:54:31	主張したいことは
0:54:34	しっかりと主張していただきたいんで、あとジョイントをね、
0:54:38	構造のジョイントリングとかそういったものが基本的にフレキシブルになっているので、力を
0:54:43	要はカトウ性がある構造全体として、
0:54:46	Aもあるわけですね。
0:54:49	Cセグメントとかそういった構造としては、
0:54:52	そういったことも踏まえながら、
0:54:55	他のサイトに比べて安全性がどうなのかとそれを考えた上で、
0:55:01	優位性があるけど同等として考えたとしたとしてもでも地震力は一緒じゃないよね。
0:55:09	その辺はどうする。
0:55:13	北海道電力は村瀬です地震力はそうですね受けた被災した地震動がそれぞれ違うことはあるんですけども、
0:55:23	泊では今までこのような大規模地震を受けてないっていったところ、
0:55:29	と比べてですねそういったところのちょっと
0:55:33	交差通話足りてませんでした
0:55:37	とですねここの比較であまりちょっと説明が足りてないといったところ途中、江崎さんにおっしゃっていただいた通り少し他サイトの比較で、うちが優位であるっていうことをあまり言いすぎると、
0:55:48	また齋藤さんのところの方がちょっと劣後するようなイメージも出てきてしまいますので、そこをちょっと気にして、説明を控え

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	てたところもあるんですが、そこら辺はちょっと調整しながらです ねしっかり考察、工学的な考察も含めて、
0:56:03	ここの結論に導きたいと思います。以上です。規制庁の江崎で す。それともですねおんなじ話が15ページも入れて、
0:56:10	ここでシールドトンネルってこの表、
0:56:14	添付7-1。
0:56:15	4表は、
0:56:17	CLを比較してるっていうのは同じシールドってことで、
0:56:21	いいかなとは思いますがボックスカルバートは何のために比較 してるんですかってありますよね。
0:56:27	多分これって、
0:56:28	普通、
0:56:31	今までですね、地下構造物か。
0:56:35	かなりの方、大きく大規模崩壊したのはこの大改革高速鉄道。
0:56:40	オダ駅ぐらいしかないので、
0:56:42	それを持ってきてるんでしょうけども、
0:56:45	だからとねそれで他大きく崩壊してるけど、わずかながら空間は 保ってたよっていうことを一つと、よりどころにしてるんだと思 うんですが、
0:56:55	ちょっとそこの部分があって、何のためにこれをさ、引用してる のかっていうのがわからないですし、
0:57:01	その他もあれですよ。
0:57:06	一つ前の兵庫県南部人ってこの辺って、断層端ってのは変ですか らかなりそういううね加速度計がついてるわけじゃないかとも言 えたかわかりませんが、
0:57:16	基本的には
0:57:19	かなり入れたとは思いますが、
0:57:22	それなりの
0:57:24	共振。
0:57:25	を伴った状態だと思うんで、ある程度そこは参考になるんだと思 うんですけど、基本的には矩形になっか系で矩形の状態のを、
0:57:36	ボックス用のものが崩壊したといったことが、この
0:57:39	隣の3号機に何の関係するのか。
0:57:44	ていうのは祖父、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:45	考察しないとわかんない。書かないとかね。そしてそれ以外も一緒に、
0:57:51	何か
0:57:53	一つ一つ、何のためにこれを比較してるかっていうことで比較した結果、何が獲られたのかっていうことが、
0:58:00	明確じゃなくて、いきなり大規模な事例は確認されていないって いうことだけでじゃあ、それが泊と何の関係あるんだって話。
0:58:08	泊から考えると
0:58:11	構造強度、大小関係だとか地震の関係だとか踏まえた上で、
0:58:16	どう考えてるのかとか言ってくれないと、よくわかんないですよ ねって話。
0:58:21	で、後半施設はこれって、
0:58:24	ここもういきなり公安係争に走っちゃってるから、これ。
0:58:28	明らかにこれあれだよねトンネルの話と比較してんじゃないで、 いわゆる、
0:58:32	12 ページとか 13 ページであるこの取水口の話をしてんだよね。
0:58:38	話してるんでね、うそそこもちゃんと書かないとさん出て、ど う、何がどうで結論なってるのかっていう、最終結論に導かれて るのかっていう。
0:58:49	ことが書いてないと、ちょっとわかんないですよ。
0:58:53	北海道電力の河村です説明がたびたび足りず申し訳ございません 今江崎さんがおっしゃっていただいた通りボックスカルバートに ついてはうちのシールドトンネル連系のものと比較して、より弱 い構造のものでも、
0:59:06	被災事例としてはこういったものしかなくてですね、代替機の方 も結局、ボックスカルバートなんですけどかなり扁平な構造であ ったりしてですね、そういったボックスカルバートっていうのは うちの構造物としてはないといったところも含めて、
0:59:19	比較したかったといったところですよ港灣施設の方もケーソン入 れてますけどもこちらハウスイの方に計算ありますので、同様の 施設でも、被災事例というのはないっていったところ、
0:59:30	そういったところの考察をですねここで入れておりませんでした ので、ちょっとそこをこの表にでも一番右でも考察なり、入れて ですね、泊としてどう考えたかというところを追記したいと思います。 以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:41	説明をいただきますよろしくお願ひしますできればですねシールドトンネルとこの辺とか、
0:59:46	どういう等土壌だったのかってのはわかれば、
0:59:50	がんじゃないですよ、ポータルで埋め立て地ですよ、高なりあそこは液状化にしてもかなり広がったところだと思ひんですけど、被災が、
0:59:58	そういったこともわかる範囲で、
1:00:01	言葉でサイトウと比較し、
1:00:03	して、比較できるものは比較。
1:00:07	数をちょっと追加して考察してください。
1:00:11	はい。北海道電力河村です。地質状況等も文献から調べられる限りは調べてございますので、そういった情報も追記して泊との比較考察を入れて結論に導きたいと思ひます。以上です。
1:00:27	すいません規制庁中尾さんです。
1:00:30	資料1-2の6465についてきます。
1:00:36	64でですね建屋の耐震性を維持できると想定される地下水についてということで、
1:00:43	65ページに、
1:00:45	添付6-3図において地下水、いう圧力を受ける範囲って書いてありまして、この図を見るとですね、
1:00:54	原子炉補助建屋については、接地率がちょっと厳しそうだかと3分の1ぐらい地下水で不良、ああいう圧力がかかっていると。
1:01:06	が原子炉建屋に比べて軽いでしょうからこういう浮き上がりっていか設置RIS割合については、どのぐらいなってるんでしょうか、原子炉
1:01:15	建屋と補助建屋について教えてください。
1:01:21	北海道電力の長田です。こちら設置率の方はですね今、宇津決まったのを踏まえて耐震評価実施中ですのでちょっと今具体的に数値としては持っていないんですけども、ここの資料の中では、
1:01:32	重量に対して、栄養圧力の比としては非常に小さいのでその影響についてもそこまで大きくないかなというところで判断したというのを
1:01:43	資料として整理したという状況になっております具体的な数値はコウニントウで改めてまた確認させていただきたいと思ひており

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ます。以上です。了解しました。臨時に設置率が出てくるという、
1:01:55	ことで理解しましたけどよろしいでしょうか。
1:02:01	北海道電力を支え、セキュリティについては今日に大臣計算書で改めて確認する予定でございます。はい、地下水の鶴君。
1:02:10	を考慮した値、あれですね、接地率でてくるということなんですか。
1:02:15	設置、余圧力っていうか、地下水が上がった時のですね。
1:02:21	設置率も出てくるということですよ。
1:02:25	北海道電力の長田さん、年 65 ページの状態、
1:02:30	の設置率が出てくるということですよよろしいですかということなんですけど。
1:02:36	はい。
1:02:37	65 年の状態の設置率を工認時にお示しいただけるんですかという質問です。
1:02:48	北海道電力の小澤です。この工認時にこの水位が上昇した時の影響というのを開いて、接地率も含めて確認したいと思います。以上です。了解しました。
1:03:00	規制庁の湯浅大沢さんね。
1:03:03	これさルーでモデル化してて、
1:03:07	そのSRモデル化ってのは浮力ってのは考慮しないんでしょう、当然ドレンが入ってるんで、岩瀬力入れないでSRをやるんですよ。
1:03:16	まずそれはそれでいいですよ。
1:03:20	北海道電力をされた大変申し訳ありませんちょっとずつ発言訂正させていただいてよろしいでしょうか。ですねそうですね今三浦さんおっしゃっていただいた通りSRの応答解析においては基本的にこの浮力の影響っていうのは行ってきません。それを考慮した評価にはなりませんので、あくまでその地下水
1:03:37	浮力を考慮した時の基礎版のなんていうの断面算定においてはこの影響というのを確認したいというふうに考えて、ではそこそこでこう誤解ないようにだから、
1:03:46	設置率なんか出てこないから、風力考慮しないね。だから、ちょっと誤解ないようにしといたらいいですよ。いずれにしろこれ、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:54	あれですよ。ここまで、確か3時間の根拠で作った資料ですよ。ここまで水が0円まで。
1:04:02	たまってくるっていう状況では、ドレンの端から見ると、ないってのは原則で仮にここまで溜まってきたとしても、重量から見て非常にネグレクトスモールだから、
1:04:13	問題はないんですよっていう資料確か作っていただいたと思うんですよ。
1:04:17	ちょっと正確にしといたらいいです。
1:04:20	まずは、動的化SSRでやるんで、この浮力分は、動的解析からは出てこないんで、
1:04:27	設置率はまず求まりませんと。
1:04:29	断面検定をやる応力解析するときには、ある程度の浮力を考えて断面検定をします。そういう理解でいいですか。
1:04:38	北海道電力の佐瀬さん、申し訳ございません今、皆さんご説明いただいた通りの理解と考えておりますのでそのように、この人事評価を進めて参りたいと思います。以上です。
1:04:52	ソース基礎的な話で、
1:04:54	今資料一位でいきますと、
1:04:59	15ページ16ページにまとめ資料として、いろんな事例を踏まえて、
1:05:05	排水が、
1:05:06	可能だ。例えば、コウ水路とか放水口放水については、完全閉塞しないって書いてあるんですけど、これは今の議論でいくと、
1:05:17	完全閉塞しないっていうことは今、否定はできないんで、それを踏まえていろんな対策をすると。
1:05:26	いう話だったんですけどもしあれですよ設工認時に。
1:05:32	防液的とか防潮で周りは液状化解析するわけですね、海底地盤の液状化を解析すると。
1:05:42	ここら辺の状況から、
1:05:44	大体どのぐらい変形するとか、そういう話がわかるんじゃないでしょうかっていうことで、
1:05:51	例えば9ページの、
1:05:53	放水量を見ますと、
1:05:55	江崎が言ってるように、岩盤とこの冊数の境目で大体壊れる。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:06:02	それは水道業指針にも書いてあるし、大体そんなもんだと思うんですけど。
1:06:06	岩盤と、冊数どの冊数という効力を出した時にこの、
1:06:13	放水炉の断面での地盤変位がわかると、その地盤変位の相対差によって今言っているシールドトンネルのフレキシビリティの
1:06:24	許容値の中に収まるかとかですね。
1:06:27	工夫すれば、そこでまともに計算するという話ではなくて、
1:06:33	何か設工認時の結果を見ながら、ある程度は考察できるんじゃないかと思うんですけど、そういう工夫っていうのは今後、設工認でやられる予定はあるんでしょうか。
1:06:48	はい。北海道電力の河村です。
1:06:51	ちょっと包丁低とかのですね液状化評価カーの断面等を用いて何かしようというところを今のところ考えてございませんでしたが、
1:07:02	今中畑さんに、のコメントを踏まえてちょっと、何が5日で行えるかといったところも考えてみたいと思います以上です。
1:07:14	今の段階では定量的評価ができないので設工認時でかなり複雑な液状化の二次元解析とか、有効力やりますんで、
1:07:24	それを踏まえるとかあと放水系とか放水口の計算についても、これは左室この下の地盤のサッシの液状化し傾いて、
1:07:35	外力ガワから津波が来る、いわゆる地震部の津波時に、
1:07:39	この放水口の計算が本当にいい。
1:07:43	そう、ひっくり返ることなくて閉塞しないか、傾くだけで済むかとか、
1:07:49	何かいろんなケースを見ながらある程度は想定できるのかなと思うんですけど。
1:07:55	もし可能だったらそういう工夫も見ながら検討されたいかがかと思うんです。
1:08:01	私からの助言でよければ、参考にしてください。以上です。
1:08:13	はい。北海道電力の星です。今ですね、
1:08:16	助言いただきましたのでその点踏まえて検討したいと思いますけれども、そもそもこのホース1とかですね壘丸計算とかは、耐震Sクラスで設計しているものではありませんので、
1:08:31	ちょっと定量的に、調停とかそういったところと同列に、土俵を同じくしてですね説明するといったところはちょっと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:41	正直難しいのかなというふうに考えておりますので、ちょっと検討はさせていただきますけれども、ちょっとそのような形でお示しできるかといったところはちょっと断言できないところですのでちょっと
1:08:54	まず持ち帰ってですね、工認段階で示せるようなものがあれば、示していきたいというふうに考えております。以上です。
1:09:01	社長ナカセアノ。
1:09:03	そこをその構成関係っていうのは、耐震CクラスなんでSEM設計をしろという話でもないし検討しろという話でもなくて、
1:09:13	例えば9ページのこの防潮庭等、
1:09:16	防波堤5番。
1:09:19	これが駄目によってはこのすさ湿度が、
1:09:23	もっと岩盤じゃないケースもあるわけですよ。
1:09:27	D44断面とか干すサンゴの放水口の、
1:09:31	何だ、岩内側とか、そういう断面選んだときに、
1:09:36	スナガワハッタたらどうなるっていう状況がある程度把握できるんじゃないかと、そういうのを、状況を踏まえて、見ることも手手ですよということなんで、
1:09:47	計算するということではないので、そこら辺は、
1:09:52	認識の方をお願いします。
1:09:55	はい。北海道電力河村です。ご指摘の趣旨理解いたしましたいろいろと、せっかく液状化に関する解析をいろんなところでやっているのだから、
1:10:05	そこにおいてはこういった海底の地盤の歳出をモデル化してるところもあるだろうし、そういったところの情報がせっかくあるのであれば、そういったところを見ながら、ここの検討の役に立つものは、取り入れていけばいいんじゃないかと。
1:10:17	いった趣旨だと理解いたしました敷設購入に向けて、何か参考にしたいと思います以上です。
1:10:25	よろしくお願いたします私から以上です。
1:10:36	規制庁の谷口です。
1:10:40	資料1-2の83ページ目のところ、
1:10:47	これ原子炉補機冷却冷却海水放水炉と放水ピットのことが書いてあって、
1:10:53	この中で排水機能を確実に維持する。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:56	書いてあって、
1:10:58	その確認にあたっては照査をして、許容限界を超えないって書いてある。
1:11:04	で、下の放水ピットについては、通水機能が維持されるって書いてあるんですけど、
1:11:11	ここで書いてある
1:11:14	各機能の、
1:11:16	許容限界、
1:11:18	どういうふうに考えているのか教えてください。
1:11:22	北海道電力の河村です。まず、減少期冷却海水放水の方はですね、今後、再構築を考えてますので、新設構造物ということで協議会は協力度で今考えてございます。
1:11:36	放水ピットの方は、佐藤さん答えられますか。
1:11:47	はい。北海道電力の佐藤です。放水ピットの方は津波防護施設になりますので、流路縮小工本体については、
1:11:56	構造共同cupを限界については弾性許容限界、弾性範囲内で考えております。また耐震クラスの
1:12:05	ですね下部のタテコウの方についても機能維持をすることで現在考えているといったところになります。
1:12:13	はい。
1:12:14	今考えてるかを、ほぼ考え方についてはわかりましたけど、
1:12:20	さっきの電気建屋のところの壁のところは2000マイクロで、
1:12:25	確認する。
1:12:27	確認してるから問題ないって言ってるんですけど。
1:12:30	そういったところ特に都築だとか、放水排水機能に関わって、
1:12:37	どういう、要は、旧玄海で抑えるのかっていうことに関しては、先行プラントでもいろいろと書いてあるのがあると思うので、
1:12:47	その辺を見ながら、確認をして、
1:12:50	どっかできっちり説明をしておいてもらいたいなと思うんですけどいかがでしょうか。
1:12:56	それは設工認で出てくる話なんだと思いますけど。
1:13:00	今、このさっきのパワーポイントのところで、さっきの電気建屋のそこだけ2000マイクロっていうことが書いてあるんですけど、そこまで書くなれば、他のところもそういうことを考えておかないといけないかなと思ったので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:13:14	その取り扱いの仕方についてはちょっと考えていただければと思います。
1:13:23	はい。北海道電力の河村です。原子炉補機冷却海水放水量につきましては、これからの新設ということで設計方針としてこちらの資料の方で、協議会協力度等とするってことは、記載可能だと思ってます放水ピットの方ですね。
1:13:38	こちら津波防護施設に関わる場所ですので、今後五条川の方でそういった協議会のところをご説明なされるかなと考えております。以上です。
1:13:47	なお、降ろさないように、よくお願いします。よろしく申し上げます。以上です。
1:14:04	北海道電力河村です。放水ピットの方は今後、こちらのパワーポイントというよりは五条川の方で別途御説明かなというふうに理解しております。
1:14:20	巾着タニグチの多分言ってることは多分、
1:14:24	あるものは何か偉い細かく書いてあるものは何か感想に変えてトーンが合っていないけどっていうのが趣旨だったかと思うんですね。だから、できるだけトーンは合わせるものの、
1:14:35	とんがってないところは何か別のところでちゃんとやるとか要は、
1:14:38	イイダそういうことですよ。はい。
1:14:41	はい。北海道電力嘉村です失礼いたしましたアノ等合わせてか記載するように今後修正したいと思います。以上です。
1:15:10	規制庁深山です。細かいところ私ちょっとあれですけど、
1:15:14	ちょっと話の整理だけしとかなきゃいけないかなと思っていて、
1:15:19	ちょっと3ページ見てもらって先ほどちょっと藤原が話をした。
1:15:22	一番初めに話したその経緯っていうのをよく理解しておいていただきたいなど。
1:15:27	これは多分規制側もそうなのかもしれないんですけど、まず3ページ話が問題になったのは、要は防潮底を占めると。
1:15:38	閉めるというのは地下水の流出が、
1:15:40	抑えるということによって地下水の上昇がもしできなくなったと、それが何の影響があるかっていうと、よう圧力の影響が出るよと。
1:15:51	原子炉建屋原子炉補助建屋の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:54	設計の前提になっている。地下水排水設備はここで言う湧水ピットの機能、3ページの機能が維持されてないと、よう圧力の影響をおよぼして、要は
1:16:06	タテに影響を与えますよと、なので、何を問題化したかっていうと、この湧水ピットポンプの信頼性をどう確保していくかと。
1:16:17	基準上どう説明をしていこうとて向上していくかって話になって、
1:16:22	その上で、今までの会合の中でこれは多重性を持たせますよと。
1:16:27	ある部分については耐震性も含めたものを持たせますよという整理が、今までされてきましたと。
1:16:34	で、ただし今回問題になったのは、ここの3ページで言っている青井、
1:16:39	専用排水ラインですね。
1:16:42	排水ラインが電気建屋を通して、一次放水ピットを通過して、原子炉補機放水量に流れていくと。
1:16:51	この放水ラインの信頼性をどう確保するかと。
1:16:55	いう話に、前回の会合でなったと。
1:16:59	そこまで認識大丈夫ですよ。
1:17:01	その上でじゃあどうしますかってなったときに、電気建屋は耐震性がもともとなかったと。
1:17:07	で、補機放水量とか一時放水ピットも呉値じゃなかったんですけど、そこは耐震性を持たすなり、放水ピット作り変えるなりして放水砲水路の方は確保しました。
1:17:20	結果的に、放水ピットまでの耐震性を確保されたので、放水機能については維持されることが確認されましたと。
1:17:30	そこまでは多分皆さん同意だと思っので、じゃあその先じゃどこまでこれを放水の話をしていかなければならないのかという話になっていて、
1:17:40	今、放水ピットより下流側は、S s 当然機能維持できないので、ただし事業者としては考察を加えた上で、
1:17:49	その
1:17:51	閉塞しないだろうという判断を今していると。ただしそこはもう、設計上0ニワ0という表現できないので、初めに話したように、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:18:02	放水ピットからのオーバーフローがした場合も含めて、何らかの処置をしましょうと、する方向を
1:18:12	事業者も考えますよというところで、そこで、この方、
1:18:17	地下水排水設備の機能っていうのの整理をしてくださいと。
1:18:22	そこを前提です。
1:18:24	だからそこまでがまず、基準適合上の範囲です。
1:18:28	公認で購入というか、設置許可ではその方針を示した上でじゃ工認でどうするかっていうと、オーナー側で話したように、基本設計方針に、
1:18:38	どのように書いて、その店舗の中で、計算書なりをどこにつけるか。
1:18:44	で、今言われたように耐震性が確保されてない話とかなると今度は補足になろう、なるだろうと。
1:18:52	その程度論をよく整理しておいていかなければいけないと、今はそのいろんなところに問題点は確かにちょこちょこあるんだけど、どこまでの制度を必要とする。
1:19:02	資料として、この部分は必要なのか、この分は必要じゃないのかっていうのをよく整理していかないと、
1:19:11	そこまで必要じゃないものまで、すごく必要な書類作りをしてこれはどうなってるんだっていったって全部同じように、レベルにしないきゃいけないっていう話になっちゃう、なってしまいますので、
1:19:21	そこはよく事業者がよく考えていかなきゃいけないと思うんですね。今そこができてないので、この部分が弱いんじゃないとか、強いんじゃないのかっていう話になってしまっていて、
1:19:32	要は、今までの経緯を踏まえて事業者としてどこまでの設計の確保と、どこまでの設計の確保プラスアルファのその運用での話と、
1:19:41	いうところをしっかりと整理していかなきゃいけないかなと。
1:19:45	どうしても今回これ見ると、いろんなものを見つけましたと。
1:19:50	だけど、いろんなものをつけたのでこちらも余計迷いますよと。
1:19:55	書類にちょっとなってるかなと思いますので、
1:19:59	そこの辺の構成も含めてすそ野先先ほど委託工認の話もそうですが、許可の話なんで工認までの話はするつもりはないんですけど、そこを見越して、どういう仕様構成にすべきかっていうのをよく考えていかないと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:11	ちょっと議論はさ、発散するかなと思いましたので、よく注意してください。
1:20:18	いいですかね。
1:20:32	カナダです。
1:20:33	ご指摘とかコメントありがとうございます。我々今回は実績他社のを調べて
1:20:42	現実的には閉塞しないだろうというふうに考えて資料持ってきましたけれども、ゼロじゃないだろうという話になると確かにS s機能維持できるものではありません。
1:20:49	それを証明することはできませんから、そう考えると、やはり
1:20:54	もうこの下流側の放水量についていろいろ細かいこと何も議論したところで、結局最終的にはここ駄目なんだろうって話であれば、資料の構成としては、やはりオーバーフローさせ、最終的にはオーバーフローさせてちゃんと、
1:21:06	排水できませんっていうことをしっかり説明するような資料にしていかないと、今回のこれの内容ってのはどう収束しないんだろうなというふうに今受けとめてます。
1:21:16	粗相じゃなくて、これ、これ、この話、雇用はその方水路移行の話もしつつ、プラスアルファこの手段もありますよっていう、
1:21:27	話をしてくるところは、理解したつもりです。なので今やってるやつに対しての整理はしますけれども、最終的にはやはり、そこは100%ギャランティーできるものではないから、それを踏まえて、最終的にはこういう点をちゃんと用意しますっていう形での主要構成をして、
1:21:44	これまとめに行きたいと思います。
1:21:48	規制庁の江寄ですもんだから使えたものは、僕が言ってるように、使えるものは使えますと。
1:21:55	でも使えなかったとしたらどうするかっていうことで確実に、
1:21:59	水を外に出すと。
1:22:01	ただそう簡単なストーリーですね、で使えたものを使う、使えるということは、何でそういう話になったのっていうことをちゃんと書いてくださいっていうことが大事です。やっぱりね、幾ら定性的つつつても、
1:22:15	何をもって大丈夫だっつってるのかわからない資料はもうね。
1:22:21	申請書とは言えないので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:22:23	厳しい言い方するけど、ただそこはしっかりと言いたいことは主張する。したいことはちゃんと主張して書いていただきたいということです。
1:22:32	保安全管理です。今のコメントわかりました。今回変えたやつについて少しいただいたコメントを踏まえて少しその整理をしていきます。ただ最終的に資料の構成としては、最悪の状態になったとしても、こういう形で排水ができることを、2を担保しますっていう形の資料構成で、整理したいと思います。
1:23:08	その他規制庁側から、
1:23:11	よければそしたら、本日のコメント回ヒアリングコメント回答リスト資料1-3ですかね、に基づいてコメントの量が継続というのを、
1:23:23	確認いたします。資料1-3お手元準備いただいて、ちょっとページ数は割愛しますと、ナンバー22からいきます。ナンバー22は排水。
1:23:33	ケーヨーの耐震性信頼性、末端まで健全、確実に排水することについて、信頼性を合わせて説明することこれ。
1:23:41	ロジックがちょっとあまりちょっとよく中田で継続とさせていただきます。その次のナンバー25。
1:23:48	電気建屋は泊P S 特区固有の設計として要求機能を整理し構造を踏まえた、
1:23:54	評価について検討すること一応電気建屋については、ナカ 2000 万幾らとか一部ちょっと話はありましたけども、これも踏まえて、梁にしたいと思いますが、
1:24:05	よろしいですね。はい、じゃあ了とします。
1:24:08	はい、じゃあN o ツガネと 66 番になります。
1:24:13	ナンバー66番は、放水炉のシールドトンネルの構造と、何かいろいろと資料を今回イシイトンネルだったけど、コメント出たので、
1:24:23	継続とさせていただきます。次 67 番も同様に、継続と S I M M E R す。
1:24:29	その次 68 番は仮設ホースを使用するんだこれは、
1:24:34	ちょっととりあえずはなしとしたのはわかりましたが今後、いろいろあると思いますが、このコミヤとりあえず了とさせていただきます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:43	その次 69 番は一次系放水ピット、これはい私が出したやつですかね、九条の
1:24:50	なんか要は下球場の原子炉建屋の電気タテの中に水が溢れた場合でも要はちゃんと対策をやってるっていうことがわかった資料。
1:25:01	橋爪病棟 S I M M E R す。はい。
1:25:03	以上でコメント内容の確認はそうなります。
1:25:08	そしたら、ちょっと本日のヒアリングのコメントの内容をちょっと今から整理しますのでちょっと一旦ヒアリングをちょっと 1 時停止します。
1:25:20	はい。規制庁藤原です。コメントの内容が、整理しましたのでヒアリングを再開します。読み上げます。本日のこれ事実確認事項としては、
1:25:32	審査会合の指摘事項の背景とか、あと先行審査実績ですね、それを踏まえてロジ系をきちっと整理して、説明をいただきたいと思ってます。
1:25:43	はい。本日のコメント、確認は以上ですが、よろしいですか。北海道の電力から何か確認したいことありますか。
1:25:52	はい。北海道電力の伊藤でございます。コメント内容について我々認識そご駄目ございませんで、対応して参ります。以上です。全体を通じて規制庁から何か確認、追加でとか、よろしいですか。はい。
1:26:09	規制庁の天田です。
1:26:12	用語の使い方なんですけど、以前流路縮小工で、3号と12号、
1:26:20	ちょっと会合資料で用語が乱れてたということで、きちっと要望で定義して、
1:26:27	使い分けるということをやっていただいたと思ってるんですけど、資料1-2の通しの9ページで、
1:26:37	下から、この表の下から三つ目津波防護施設の
1:26:43	ところで3号炉放水ピット流路縮小工というような形で多分整理していただいたと。
1:26:50	資料中見ると、
1:26:53	例えば通しの72ページではですね、
1:26:56	谷放水ピット流路縮小工というふうになっていて、これ、最終的にまとめ資料全体をまとめた上で、
1:27:04	申請書の形で整理していただくときに、ちょっと言葉が

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:10	きちんと定義して使われてないと何を指すのかというのが特定できないので、この辺りは、
1:27:17	適正化していただく。
1:27:19	べきところは適正化をお願いしたいと思うんですがいかがでしょうか。
1:27:25	はい。北海道電力河村です。ちょっと3号炉とか省略してしまっ て書いてるところがございますので、そういったところも省略せ ずに正式名称としてしっかり記載していきたいと思います。以上 です。
1:27:38	はい。規制庁の浜野です。よろしく申し上げます。以上です。
1:27:45	あと北海道電力から何か。
1:27:47	確認したいこととか、
1:27:49	ありますか。
1:27:53	はい。北海道電力からは特にございません。
1:27:55	はい。規制庁伊田です。本日のヒアリングは以上とします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。